



上演時の手応えはあったものの最優秀賞をいただいた時は一同で「ええっ」と驚きました。今は素直に喜んでいます！飯館校演劇部

仲間とともに
その46

相馬農業高校
飯館校演劇部

1月10日、冬休み中の稽古日におじゃましました。コンクールの賞状などを手に。左端が顧問の西田先生

活動データ

- 創部3年目ながら東北ブロックの高校演劇コンクールに2年連続で出場。今年度は同大会で最優秀賞を獲得し、8月、全国大会に出場します。
- 部員は5人。顧問の西田直人先生が、矢野青史というペンネームで脚本を手掛けます。

昨年末いわき市で開催された東北ブロックの高校演劇コンクールで、創作劇を発表した飯館校演劇部。学校の「帰村」と向き合う生徒の心の動きを、舞台上に瑞々しく描き出しました。部長の菅野千那さん(2年)は、皆のやりきった表情を見て「積み重ねてきたものが出せた」と手応えを感じたそう。音響を担当する伊藤稜人さん(3年)も「感動しながら作業した」と振り返る出来映えで、最高賞を受賞しました。また、チームワークの大切さなど、活動から学ぶことも多いとか。昨春入部した後藤滝翔さん(2年)は「人前でも臆せず話せるようになりました」と笑顔を見せました。

会場を満たす 共感と感動

—サテライト仮想劇—いつか、その日に、



飯館校が村内に戻る時を想像する主人公ハルカと友人サトルを中心に、原発被災地の高校生が、自分ではどうしようもない現実と向き合い、乗り越えようとする姿を演じました。上演後に舞台上であいさつする部員達。感動の余韻が残る会場から惜しみない拍手が送られました。

1/22 相馬飯館校演劇部
自主公演@こむこむ

相馬農業高校飯館校の演劇部が、こむこむ(福島市)で、あさか開成高校(郡山市)と合同の自主公演を行い、東北ブロック高校演劇コンクールで最優秀賞・創作脚本賞を受賞した「サテライト仮想劇—いつか、その日に、」を上演

しました。

劇の舞台でもある飯館校は、全村避難により、平成23年度は県教育センター(福島市)で、翌24年度からは県立福島明成高校敷地内の仮設校舎で授業を行っており、現在は全校生徒の約8割が村外出身です。「それぞれの立場に自分を置き換えて観ていただけたら。今の私たちだからこそできる劇だと思っています」と部長の菅野千那さん(2年)。共に心の成長を遂げていく登場人物の姿は、劇であることを忘れるほどリアルに胸に迫ります。

上演後、木幡ナカ子さん(伊丹沢)は「涙が流れた。自分もここで折れては駄目だと思った。皆に観せたい」と。また、「子ども達の気持ちを考えさせられた」「素晴らしいの一言。全国大会も頑張っほしい」「深い演技。飯館を思いながら観た」など、多くの人が目をうるませて共感を語っていました。

表紙 村民ふれあい集会

ゲストのコロッケさんが爆笑のものまねと心温まるトークで客席を魅了しました。P3で特集。



飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。